

薬草園の花だより

第4号

2017年（平成29年）9月13日発行

■第4号に寄せて

暑くて涼しいという、慌ただししい天候の変化のあった夏が終わり、秋の風を感じる今日この頃です。花を見ていると季節の移ろいがはっきりとわかり、薬用植物園にても夏の花から秋の花に変わりつつあります。この夏の間には種々の花々が咲いたのですが、残念ながら、サルスペリやオミナエシなど花だよりに紹介する前に終わってしまった花もありました。

なお、このパンフレットは、これまで、プリントアウトしたものを漢方資料館前のテーブルにだけ置いてきましたが、今回からは、メールボックスの上にも若干置くことにしました。是非、お持ち帰りになって御覧ください。（船山）

■今咲いています

《ヒガンバナの仲間》

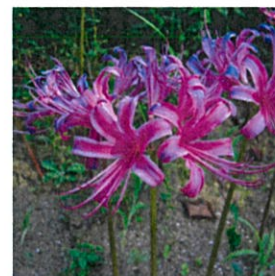
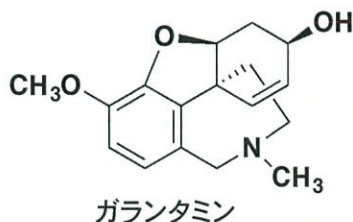
ヒガンバナは、言わずと知れたヒガンバナ科の毒草ですが、かつては救荒植物として、飢饉の時にその球根のデンプンが食用とされました。ただし、十分に水に晒して有毒アルカロイドを除かなければならず、晒し方が足りないための中毒も多発しました。有毒成分はリコリンなどのアルカロイドですが、そのうちガラントミンがアルツハイマー型の認知症に應用されるようになりました。

ヒガンバナには異名が多く、その中には花の時には葉が無く、葉のある時には花が無いためにハミズハナミズという名前もあります。一方、シビトバナやユウレイバナなどといういささか気味の悪い名前もあります。これはヒガンバナが秋の御彼岸の時に咲くことや、かつて、その有毒成分含有のために、土葬の際に野犬などに墓を荒らされないように、墓の周辺に植えたこともその命名の由来と言えましょう。しかし、私（船山）が感じるユウレイバナの名前の由来は花が咲き終わった姿にあるのではないかと感じます。この仲間は実に綺麗な花をつけますが、咲き終わり、萎れた花弁がだらりと下がった様子（幽霊を思わせる姿です）はあまり気味のいいものではありません。とはいえ、この仲間はアメリカでは突如花茎を出して花をつけるので、マジック・リリーなどと呼ばれてよく栽培されていますし、わが国でもこのごろは学名のリコリスの名前で普及し、人気が上がってきました。私はこの仲間の植物は昔から好きで、種々のリコリスを庭に植えてきました。

上の写真は9月11日、下の写真は8月31日に薬用植物園にて撮影しました。ヒガンバナはどこでもほぼ正確に9月23日前後に咲きますのでちょっと咲くのが早すぎますね。上の花は、色も形もわが国で普段見かけるヒガンバナと似てはいるもののちょっと異なります。そのため、ここでは、リコリス sp. と記させていただきます。下のものはリコリスの仲間のうち、おそらくジャクソニアナ・ロゼという名前のついている園芸品種ではないかと思えます。



リコリス sp.



リコリス（ジャクソニアナ・ロゼ?）

《チョウセンアサガオ》

ナス科に属するチョウセンアサガオならぬケチョウセンアサガオが薬用植物園にて8月中に咲いていましたが、あまり生育は良くありませんでした。これまで本学にはなかった本家本元のチョウセンアサガオを来年の夏に咲かせる予定ですので御期待ください。そこで、まずは写真にてチョウセンアサガオとケチョウセンアサガオを比較して見ましょう。よく間違えられていることがありますので、その違いを覚えておいてください。本来のチョウセンアサガオの葉には毛がなくて、つるりとした印象で、花の形も違います。これら、チョウセンアサガオからもケチョウセンアサガオからも全草よりアトロピンという有名なアルカロイドが得られます。アトロピンは、我が国に自生するハシリドコロからも、中国大陸に自生するシナヒヨスや、ヨーロッパに自生するペラドンナ、マンドラゴラ（マンドレーク）からも得られます。これらの

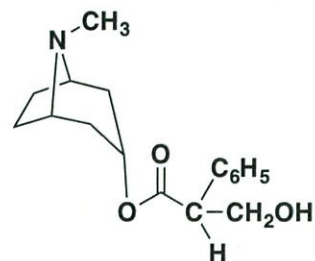
植物はいずれもナス科に属します。写真のチョウセンアサガオは東北大学薬学部の薬用植物園にて今年の9月初めに咲いていたものを、また、ケチョウセンアサガオの写真は昨年8月末に仙台市内にて撮影したものです。



チョウセンアサガオ



ケチョウセンアサガオ



アトロピン

■他にも咲いています・咲き始めました・見頃です

《インドジャボク》

以前にインドジャボク（キョウチクトウ科）の花を紹介しました（創刊号）が、温室内にて果実をつけています。なかなかきれいですから、是非、観察してください。インドジャボクの根からはレセルピンというアルカロイドが得られています。レセルピンは、当初、血圧下降成分として知られましたものの、後にはメジャーランキライザーとしての作用が注目されるようになりました。



インドジャボク



シロバナのトリカブト（オクトリカブト）

《トリカブト》

あるところで、珍しいシロバナのトリカブト（キンポウゲ科）が咲いていました。来年用の苗を分けてもらうことにしましたので、来年は薬用植物園にも見られると思います。

《ニラ》

ニラ（ネギ科）が今、ちょうど薬用植物園の温室の東側にて花をつけています。そばでよくみるとなかなかきれいです。ニラは薬用植物というよりも野菜の感覚かもしれませんが、薬用植物としても使われています。ニラは香りが強く、いわゆる「葷酒山門に入るを許さず」の葷に該当する五葷の一つです。五葷とは、辛味のある五種の野菜であり、仏家では、ニンニク、ラッキョウ、ネギ、ヒル、ニラをさします。



ニラ

《その他》

目立ちませんが、ローズマリーやホソバオケラなどの花が見られます。また、引き続き、ニチニチソウやポーチュラカ、マリーゴールドなども咲いています。

発行：日本薬科大学薬用植物園運営委員会
委員長（薬用植物園長）／船山信次
副委員長／山路誠一
委員（教員）／野口博司、西川由浩
新井一郎・糸数七重
委員（事務）／今村隆・笹井彰・鈴鹿和子
土屋翔太郎・天野崇教・高峰康行